第７９回（令和６年１２月）文章入力スピード認定試験（日本語）問題

わが国において縁起物といえば、だるまやフクロウなど、さまざまなものが挙げられる 40
でしょう。その中でも松竹梅の組み合わせは、正月の門松や結婚式の引き出物に用いられ 80
るなど、おめでたい行事に欠かせないものとして親しまれています。これらを一組として 120
まとめる考え方は、中国で生まれたそうです。 142

この組み合わせは、世間の困難に耐える徳のある気高く立派な人物を表しており、文人 182
の画題などとして親しまれていました。それが日本へ伝わったのは平安時代ではないかと 222
いわれています。わが国では、縁起のよい植物の集まりとして、おめでたいものといった 262
認識で広まっていきました。ちなみに、この順番で呼ぶようになったのは、わが国におい 302
て、縁起物のシンボルとなった年代の順が関係しているという説があるそうです。まず松 342
は平安時代に、年中緑を保ち冬でも枯れないことから、長寿の象徴や神聖な木として信仰 382
されるようになりました。竹は、たった数か月で親と同じ高さまで大きくなるほど生命力 422
にあふれ、枯れることなく次々と新しい芽を出すことから、室町時代から成長のシンボル 462
として用いられています。そして梅は寒い冬の中、どの植物よりもいち早く香り高い花を 502
咲かせる姿から、江戸時代に気高さの象徴として定着したそうです。しかしこれには、た 542
だこの順番が口にしやすいなど諸説あり、真偽は定かではありません。 575

松竹梅それぞれがおめでたいものとされ、本来はこれらに優劣はないといいます。ただ 615
し現代では、商品などのグレードを表す言葉としても使用されています。こうした用法が 655
広まった背景には、客側への配慮があるといわれています。この始まりは、江戸時代のと 695
あるすし屋だそうです。当時この店では、値段が異なる三つのセットがあり、上等なもの 735
を特上、そして最も安価なものを並と呼んでいました。しかしこのような直接的な表現だ 775
と、お客さんは注文しにくいことから、グレードを感じさせないこれらの植物に置き換え 815
たというのです。そしてこれは、言葉の響きが美しいということもあり、たちまち全国へ 855
広まっていったそうです。現在では、店によっては商品のグレードではなく、内容の異な 895
るメニューを並べて提示したいときに使うこともあるようです。 925

また、消費者の心理を表す言葉としても用います。わたしたち人間は、三段階の選択肢 965
があったとき、無意識のうちに真ん中を選んでしまうそうです。これは「松竹梅の法則」 1,005
と呼ばれており、上位や下位といった極端な選択を避けることで、失敗や後悔をしないよ 1,045
うにするという心理に基づいています。つまり、商品を売りたいとき、価格やグレードが 1,085
異なる三つの選択肢を用意して、意中のものをあえて中間の値段にすることで選んでもら 1,125
える可能性が高まるというわけです。この法則を用いることで、相手の行動をあらかじめ 1,165
予測できるため、経済やマーケティングなど、さまざまな領域で活用されています。ちな 1,205
みに対面で価格を提示するときは、まず上位や下位を紹介した後に、真ん中の商品を提案 1,245
すると、購入決定率が高くなるといわれています。 1,269

天下を取るために命を懸けて戦った多くの武将は、今もなお現代人を魅了してやみませ 1,309
ん。低い身分でありながら、上司に気に入られたことで出世し、天下統一まで成し遂げた 1,349
者や、目的に対するリターンを明確に部下たちに告げることでモチベーションを向上させ 1,389

た者など、その時代を生き抜いた武将たちには、多くのエピソードが残されています。実 1,429
際、尊敬する人物は誰かと聞かれて彼らの名前を挙げる人も少なくありません。 1,466
　戦乱の世を勝ち抜くためには、さまざまなものが必要となってきますが、経済力も欠か 1,506
せませんでした。戦は個人が武力に優れていれば勝てるようなものではないので、優れた 1,546
兵士を雇うための給料や食費はもちろん、刀や弓などの武具、攻め落とした城の補修費が 1,586
必要となってきます。さらに、農作物を安定的に収穫するための治水事業や、物流を円滑 1,626
にするためのインフラ整備、金や銀などを獲得するための鉱山開発など、あらゆる手段を 1,666
講じて、領国の経営や軍備増強を行っていました。時には、財力の差で戦いの勝敗が決ま 1,706
るということもあり、物資やお金の工面に苦労していた大名も少なくないようです。 1,745
　例えば、その時代を勝ち抜いた戦国大名の中に、大変な倹約家として有名な人物がいま 1,785
した。彼の暮らしぶりはというと、食事はあえて麦飯を食べて身に着けるものも質素、下 1,825
着はほとんど買い替えなかったというから驚きです。他にもトイレで使う紙一つの紛失も 1,865
許さず、着物の新調を勧めた者を厳しく注意し、継ぎはぎだらけの羽織を着ていた盟主を 1,905
褒めたたえていたなど、数々のエピソードが残されています。このような質素でつつまし 1,945
い生活を徹底することで、無駄な支出を抑え財政の安定を図っていたそうです。これが、 1,985
最終的に彼を天下人へと導いた原動力の一つだといえるのかもしれません。 2,020
　その他、知略を巡らし数々の戦を勝利に導いた大名も節約上手だったとされており、材 2,060
木の端切れなどは捨てずにためておき、風呂を沸かす際に使っていたそうです。さらに、 2,100
魚の骨は干して砕いた後ふりかけにしたり、ウリの皮を厚くむいて漬物にしたり、自分が 2,140
必要でなくなったものは家臣に売り下げたりなどして、いざというときのための軍事費を 2,180
蓄えていたそうです。一方で兵士を集めたときには褒美を惜しむことはなく、支度金を二 2,220
度受け取ろうとする者に対しても、何も言わずに与えたという話も残されています。 2,259
　直接的ではないかもしれませんが、工夫とアイデアで人の心をうまく動かして、効率化 2,299
を図ったというエピソードが残されている武将がいます。彼は、たたき上げで天下統一を 2,339
果たし巨万の富を手にした戦国大名に仕えており、その才覚や忠義ぶりは、現在の実業家 2,379
なら誰もが求める人材なのではないかといわれるほどです。あるとき、大名の命令で城の 2,419
井戸掘りを任されたのですが、作業は難航して思うように進みませんでした。そこで彼は 2,459
底にお金を埋め、見つけた者にはそれを与えると告げました。すると作業員は懸命に働き 2,499
始め、作業は飛躍的に進みます。結果的に短時間で工事を終わらせることができ、無駄な 2,539
時間や労力を省くことができたというのです。こうした頭の回転が速く機転が利いた彼の 2,579
エピソードは、数多く残されています。 2,598
　武将たちの節約術には、困難な状況を乗り越え、目標を達成するための知恵と工夫が詰 2,638
まっています。現代を生きるわたしたちも、彼らの生き方を参考に、より豊かな生活を目 2,678
指していきたいものです。 2,690